



「新年」と聞くだけで、心躍る気持ちになるのが日本人ですが、英国人はそうではないとの事。

年末年始の為に帰省していたロンドン在住の日本人の方に教えてもらいましたが、英国では一月一日のみ祝日で、二日からは平日だそうです。会社もあれば学校もあるそうです。「所変われば、品変わる」とはよく言ったものです。まあ、お寺は大晦日も正月三日もずっとお勤めです……。

変わります

良啓

「普天間飛行場周辺まちづくり事業」をご存知でしょうか？

これは、宜野湾市が主体となり、普天間地区と真栄原地区を整備する都市計画です。現在、当寺の正面は複数の建物があり、大通りから見る事は出来ません。しかし、戦前は違っていて、大通りに面しておりました。それが戦後の混乱期に寺前に建物が立ち並び、結果的に当寺は奥まっつてしまいました。今回の事業で、それを撤去する事が決定しました。

この様に戦争前後で、当寺を取り巻く環境は大きく変化しました。この度、護佐丸の時代から続く当寺が戦前の姿に近づく事は、歴史的、宗教的に大変意義のある事だと感じております。

個人的な話ですが、子供の頃、「どうして隣の神社は通りからよく見えるのに、うち（お寺）は、隠れているんだろう？いつかお寺もよく見える様にしたい」と考えておりました。子供の頃の想いが実現する事は、嬉しい限りです。

計画では、平成三十二年度前後に寺前が緑地帯になります。そしたら、普天間三差路で当寺が迎えてくれる景色になるのでしょうか。

その日の為に、昨年からは境内整備を進めております。工事などでご不便ご迷惑をお掛けしますが、何卒、ご理解頂きたいと存じます。



戦前の鐘楼堂

身近にある仏教語③

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

醍醐味

「本当の面白さ、深い味わい」などの意味で使われる言葉ですが、元来は「牛や羊の乳を精製した物」を「醍醐」と呼び、その味わいを「醍醐味」と呼んでいました。この醍醐は牛から乳を搾ったのちに三つの過程を経て出来る最上の味を持つ乳製品だったそうです。涅槃経（ねはんきょう）というお経の中で、「乳から様々な過程を経て出来た最高の物は醍醐であり、この涅槃経も醍醐のように数々の経典を経て出来た最高のお経である」という一節があった事から、仏の真実の教えの事を醍醐、醍醐味と呼ぶようになりました。ちなみにこの醍醐、現代というバターとヨーグルトの中間のようなものと考えられています。残念ながら、その製法は失われていて久しく味わうことができません。

カルピス

カルピスといえば、国民的人気を誇る乳酸菌飲料ですよね。実はこのカルピス、お坊さんが作った飲み物なのです。右で紹介した醍醐が出来ると一つの状態を熟酥（じゅくそ）といい、サンスクリット語では「サルピス」といいます。この言葉にカルシウムを合わせてできた名前が「カルピス」なのです。醍醐味とはカルピスのような味わいだったのでないかと推測している研究者もいるそうです。

